

卑弥呼は丹後にいた!?

大陸との交易の中心にあつた高い文化と、強大な権力。これらを伝える無数の遺跡。浦島、羽衣など伝説の宝庫。丹後はまさに日本のふるさとである。

丹後物語

丹後十王國



丹後は日本のふるさと



第1部

まんが 丹後王国物語

作・原どし子／画・みさき明良

- 1話 女王ヒミコヒトヨ
2話 ヒバス姫と丹後王国
3話 その後の丹後と海部一族
4話 よみがえる丹後王国

第2部

「丹後國風土記」の世界

- 天橋立は天上につながるハシゴたつた?
不老長寿の薬を求めてやってきた徐福伝説
鬼退治と大江山
八人の天女のうち、一人だけ羽衣を纏された…彼女の運命は?
日本最古の「うらしま物語」
皇妃となつた丹後の姫たち
国宝「海部氏系図」
丹後・元伊勢伝承はこうして生まれた

第3部

遺跡が語る丹後王国

- 潟湖を通して大陸と交流
最先端だった丹後のものづくり、その歴史と文化の流れ
ムラからクニへ
王墓の出現
巨大古墳の時代
古墳が語る王の証し

第4部

今に息づく丹後の宝

- 丹後は食の宝庫
さらびやかな丹後王国の暮らし
心なごむ丹後の風景

第1部 丹後王国物語

まんが

作画 伴 とし子
みさき明良



今から一二〇〇年前の七一二年に「丹後」という国が誕生しました。この物語はそれよりも前の卑弥呼の時代から始まります。

丹後地域に伝わる数々の伝承や文献、遺跡などから、丹後に卑弥呼がいたかも知れないと考えられるのです。その鍵を握るのは、籬神社（宮津市）所蔵の日本最古の堅系図「海部氏系図」です。これには古代史の歴史を解き明かすヒントが秘められています。

そして、「古事記」「日本書紀」には丹後の姫たちが、皇后や妃になったことが書かれています。それらを読み解くことで、丹後國誕生の壮大な物語が見えてきました。

さうに数多くの古墳や出土品から、大陸との交流を持ち、古代日本の表玄関として栄えた豊かな国があったことがわかります。

まずはこのページを開いて、古代丹後の世界にタイムスリップしてみましょう。

伴 とし子

伴 とし子

京丹後市出身の古代史研究家

著書 「古代丹後王国は、あった」（東京経済）

「前ヤマトを創った大丹波王国」（新人物往来社）

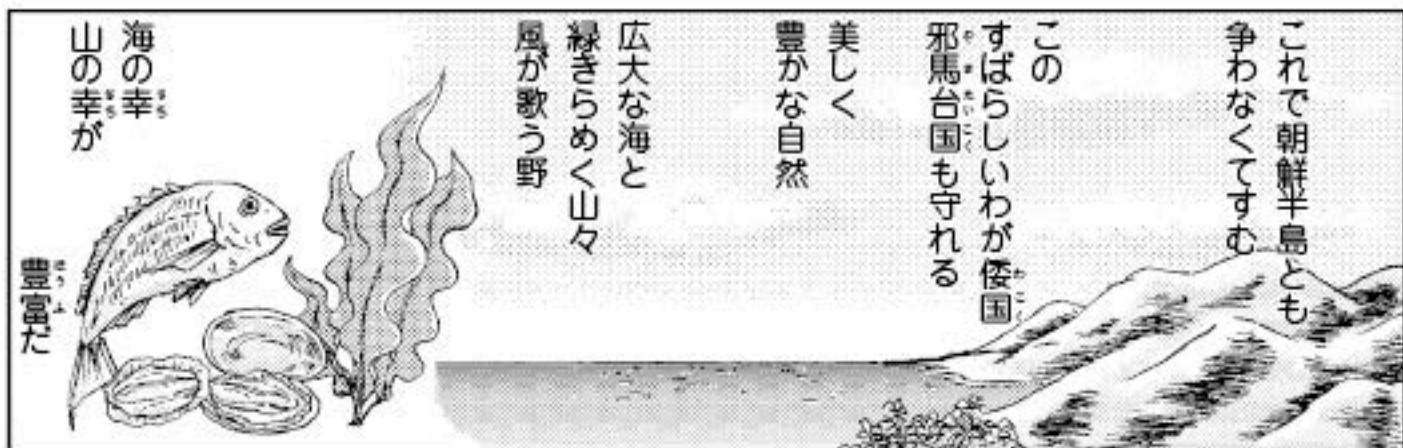
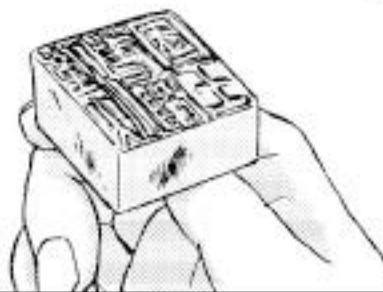
「ヤマト政権誕生と大丹波王国」（新人物往来社）

「応神と仁徳に隠された海人族の真相」（新人物往来社）ほか



親魏倭王の
金印なのか

これが金印…



古代日本の邪馬台國を治めた女王といわれる女性で、古代中国の西晋の学者・陳寿が著した『三国志』の中の「魏書」東夷伝倭人条に記されている。倭人と倭国について述べているため、この条のことを「魏志倭人伝」と呼ぶ。

倭国には邪馬台國があり、「一女子をたてて王となす。名付けて卑弥呼」とあるが、邪馬台國が日本のどこであるか、また卑弥呼は誰だったのか、謎が多く、さまざまな議論を呼んでいる。ただ、「古事記」や「日本書紀」ではほとんどふれられていない。

卑弥呼の生年は不明だが、正始八年（二四八）頃死亡と考えられる。年齢は不詳ながら「年は長大である」とされることから、長寿だつたと思われる。

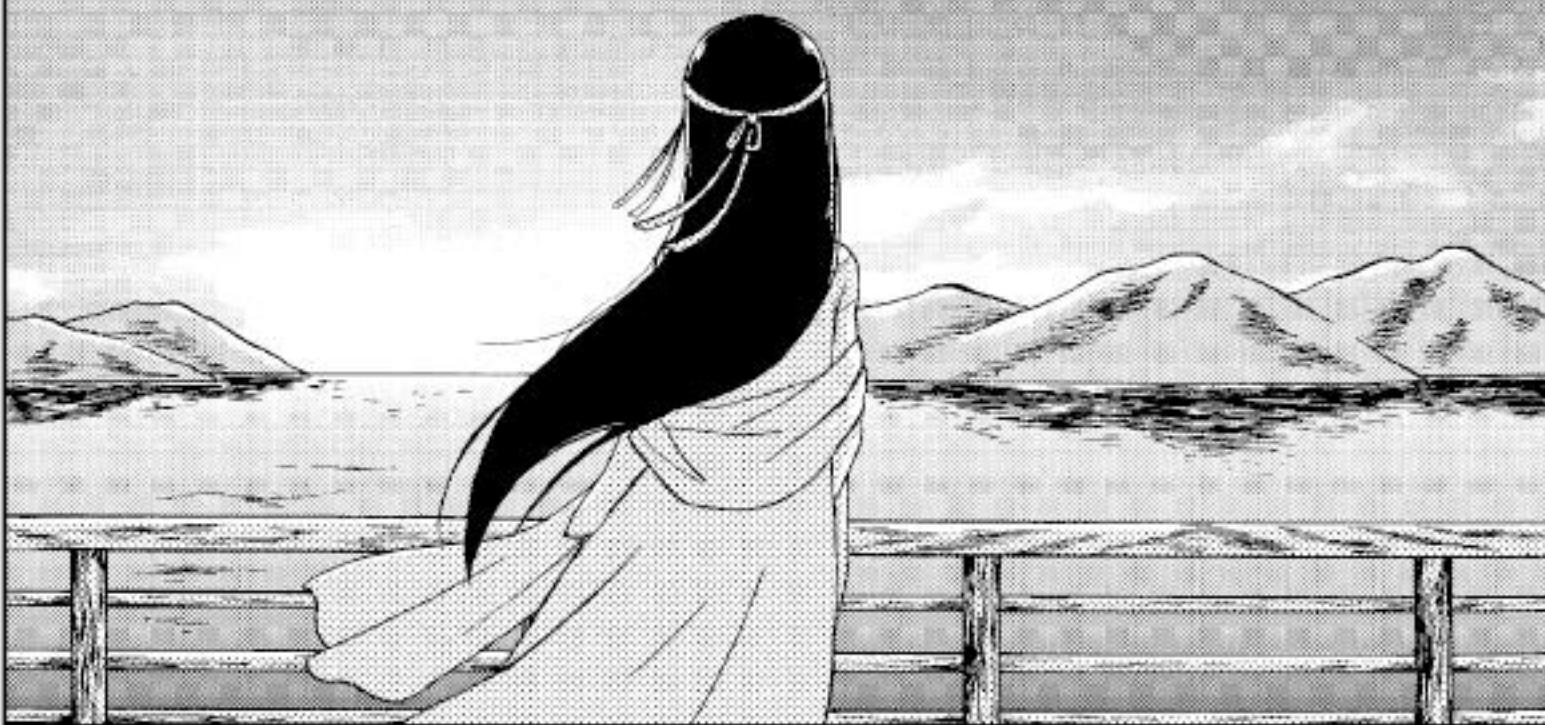
また、卑弥呼は景初二（二三八年）年（景初二年説あり）ごろ魏に遣いを送り、魏の皇帝から「親魏倭王」の称号と金印紫綬が与えられたという。このときの金印はいまだ見つかっていないが、西暦五七年に後漢の光武帝から「奴の国王」に授けられた金印が九州から出土している。卑弥呼にも、これと同じような金印が授けられたのではないかといわれている。

この海の向こうにある大陸とは
交易も盛んだ

海人族

周囲を海に囲まれた日本では、早くから大陸と交流し、いち早く文化や技術を取り入れた国が栄えていた。そんななかで活躍したのが、「海人族」である。海人族は全国各地にいたと想像され、海部郷に住んでいたとされる。古代海部郷は全国に一七ヶ所あるが、丹後半島とその周辺に三ヶ所【熊野郡海部郷】(京丹後市久美浜町)、【加佐郡凡海郷】(福井県坂井郡海部郷)ある。

また、新羅の王子アメノヒボコの渡来した伝承が各地に残り、国際的に交流があったことを示している。京丹後市の志布比神社の社伝によるとアメノヒボコが箱石浜に上陸したと伝えられている。宮津市龍神社が所蔵する【海部氏勧注系図】には、新羅国を攻める際に、丹波、但馬、若狭の海人三百〇〇人を率いて水主として奉仕したと記されていることから、丹後地方には巨大な海人集団があつたことがうかがえる。



たくましいリーダー
助け合う和の心
それは海に生きる者の
鐵則だ



戦となれば
強力な水軍となる



疲れ果てた
小さなクニの長たちは
私の祈りの声を求め
この国に集結した

倭国全体を巻き込んだ
あの大乱



神の声に耳を澄まし
その声を皆に伝え
平和な国を造ることだ



私は巫女王
大きな倭の国の女王

これからもこの国
永遠の平和と繁栄を
祈り続けよう



古代日本は、各地に小さな国がいくつもあり、それぞれに王がいたと考えられている。「魏志倭人伝」にも「邪馬台国」「投馬国」「奴国」「狗奴国」など多くの国の名が出てくる。

中国のいくつかの歴史書によるところ、倭国（日本）には一〇〇余国あり、男性の王が治めていたが、一七八一～一八四年ごろ（史書によつて年代は異なる）、國同士が争う大乱が起こつたとある。なかなか争いが収まらないため、各地の王は鬼弥呼の力を頼り女王として共立したという。

このころ国の統治者に求められるのは、財力や政治力だけではなく、神の声を聽く宗教的な力だったようだ。鬼弥呼の持つ靈力を見込んでのことだったのだろう。

女王ヒミコとトヨ

この美しい朝日は
我が国のすばらしい未来を
約束してくれる

いつ見ても

丹後(タニハ)の海は美しい――



トヨ：台与。卑弥呼が亡くなつたあと、一二歳で女王に就任。卑弥呼の死後、国内は再び争いが起り、一〇〇〇人余りが死亡するが、トヨが女王になって国内は平安を取り戻した。

なお、トヨは、『魏志倭人伝』に、「卑弥呼の宗女臺與」と書かれた人物。「トヨ」と「イヨ」と読む二つの説があるが、『梁書』『北史』には「臺與」と記されている。「臺與」は常用漢字では「台与」と書くため、ここでは「トヨ」説をとる。

*「丹後」という国は、それまでの丹波が七一二年に分割されてできた国である。古代では現在の丹波と丹後を合わせた土地を「丹波」（日波、タニハ、たにわ）と呼んでいたが、ここでは場所を明らかにするために「丹後(タニハ)」としている。

登場人物

ヒミコ（卑弥呼）：邪馬台国の女王。『魏志倭人伝』によると「鬼道に仕え」とある。鬼道とは宗教的な祭祀のことで、巫女的な働きをしたと思われる。二四八年頃に死亡。

丹後は古代

「ターハの国」と呼ばれていました

この地でたわわに実る稻穂を見たトヨウケ大神様が「あなたにえし、たには」と喜ばれ「たには」と名づけられたのです



場所は
京都府の北の部分

京都府

丹後

(天橋立)

有名なものに
日本三景のひとつ
天橋立があります



古代は
日本海が
表玄関
じゃったからの
中国大陸に近い日本海沿岸は
朝鮮半島や
半島との交易で
栄えていたんじや

海の神
シオヅチノオジ



青い日本海
海水浴
釣り

伊根の舟屋
や温泉などが有名です

でもはるか昔
弥生や古墳時代には
丹後は貿易と工業で
とても裕福な
先進都市として
名を馳せていました

巫女のかんちゃん

たには（丹波）の語源は古く、「丹後風土記」残欠には、「当国は往昔、天火明神等の降臨の地である。丹後国は、元は丹波国と合して一国であったが、元明天皇の御代（七一三年）に丹波国の五郡を割いて丹後国を置いた。丹波としわけは、豊受大神が伊去奈子嶺に天降られた時に、天道日女神等が大神に五穀、および桑蚕等の種を求められた。そこで、豊受大神はこの嶺に真名井を掘り、その水をそそいで田畠をつくり、種を植えられた。秋には八握りもある穂がたれて、実に快かつた。これを見て大変喜ばれた豊受大神は、あなたにえし田庭（立派に実った良い田庭）であるとおっしゃられ、田庭というようになつた」とある。天火明神とは天孫降臨した源氏天忍の兄神で、龍神社宮司の始祖にあたる。天道日女神は天火明神の后である。

丹波

（案内人）
カンナちゃん：巫女の血を引く少女。かんなの名前の由来は、巫女として神託を受け、民衆に伝える者を「かんなき」ということから。
シオヅチノオジ：塙土の翁。海の

丹後の人々は器用でな
奈具岡遺跡(京丹後市)には

日本最古で最大の
水晶工房があり

精密な技法で
美しい玉類を作っていた

精緻な技法で
美しい玉類を作っていた

砂鉄が
採れたんじや
鐵は輸入される
だけでなく、丹後でも
たくさん出ていた

最先端のアクセサリーは
他国でも憧れだつたろうなあ

それらを海外に
輸出して
かわりに鉄素材を
輸入していたんですね



ひとつのお墓から
大風呂墳墓からは
11本もの鉄剣が
出てきた
こんなに多く
お墓に入れる国は
他になかった
鐵が貴重な時代に
鐵製の剣を

弥生後期の大和の墓には
そうしたもののが
入っておらん

じゃ、大和は?
墓に入れると
剣は二度と使え
なくなる
のじやからな
つまりそれだけ
丹後は鉄が
豊富で
国力があつたと
いう証拠じや



弥生後期といえば
ヒミコが活躍した時代
その時たくさんの鉄、ガラス
玉類という見事な副葬品を
もつていたのが丹後の王墓

だから大和は
丹後王国が栄えた後に
丹後の海人族が
開拓した土地なんじや
これは
丹後の籠神社様にある
国宝「海部氏系図」と
「海部氏勘定系図」から
わかる



弥生時代後期は、紀元一〇三世紀初頭ごろ。その後、古墳時代に入る。

当時の丹後は鉄製品や水晶玉の生産量が多かった。左坂墳墓群(京丹後市大宮町)や三坂神社墳墓群(京丹後市大宮町)からは、大量の水晶玉、ガラスの勾玉や管玉、鉄剣や鉄製品が出土。中国大陸製と思われる素環頭鉄刀も見つかり、この土地の王の墓ではないかと考えられる。

ガラス鏡や多量の鉄剣が出土した大風呂南一号墓や、勾玉、管玉で飾られた冠が出土した赤坂今井墳丘墓から、丹後の弥生後期の繁栄がわかる。



丹後一の宮の
籠神社に残る

「海部氏系図」には

一族の秘められた
忍耐の歴史がこめられている



系図には
古代の丹後が
いかに力をもつて
いたのかということを



ヤマトスクネ (倭宿祢命) は
丹後で生まれた。籠神社の「海部氏勘注系図」には、海部氏は彦火明命を祖神として、第三世孫に倭宿祢命と書かれており、海部氏の四代目であることがわかる。さらに勘注系図には、「倭宿祢命は大和の國に遷座の時、白雲別神の女・豊水富命を娶り、笠水彦命を生む」とあり、丹波からヤマトに入ったということが書かれている。

これからも丹後王国の勢力が大和に入り、大きな影響を与えたことがわかる。丹後王国（＝大丹波王国）の勢力のヤマト入りを表している。

「古事記」神武天皇の条には、神武天皇は速吸門（明石海峡）で亀の背に乗って釣りをしている人に出会い、その人の先導で大和に無事に入れたことが記されている。その先導者は、倭国造等の祖である。

当時の中国は、魏王朝、朝鮮半島は高句麗と馬韓・辰韓・弁韓の三国時代であった。なかでも魏は高句麗に攻め入るなど、勢力を伸ばしていた。丹後は多くの遺跡から、これら東アジア諸国と交易をしていたと思われる。



こんどは
あの雲よ

見てて

やはり
ヒミコ様が
言わされたとおりだ



神の子なのだ



あの子は
神子



常世島へ
行くぞ
仕度を
しておいで

じゃあ
またね

トヨ！



この子には
舞台が
大きな
もっと
待っているのだ

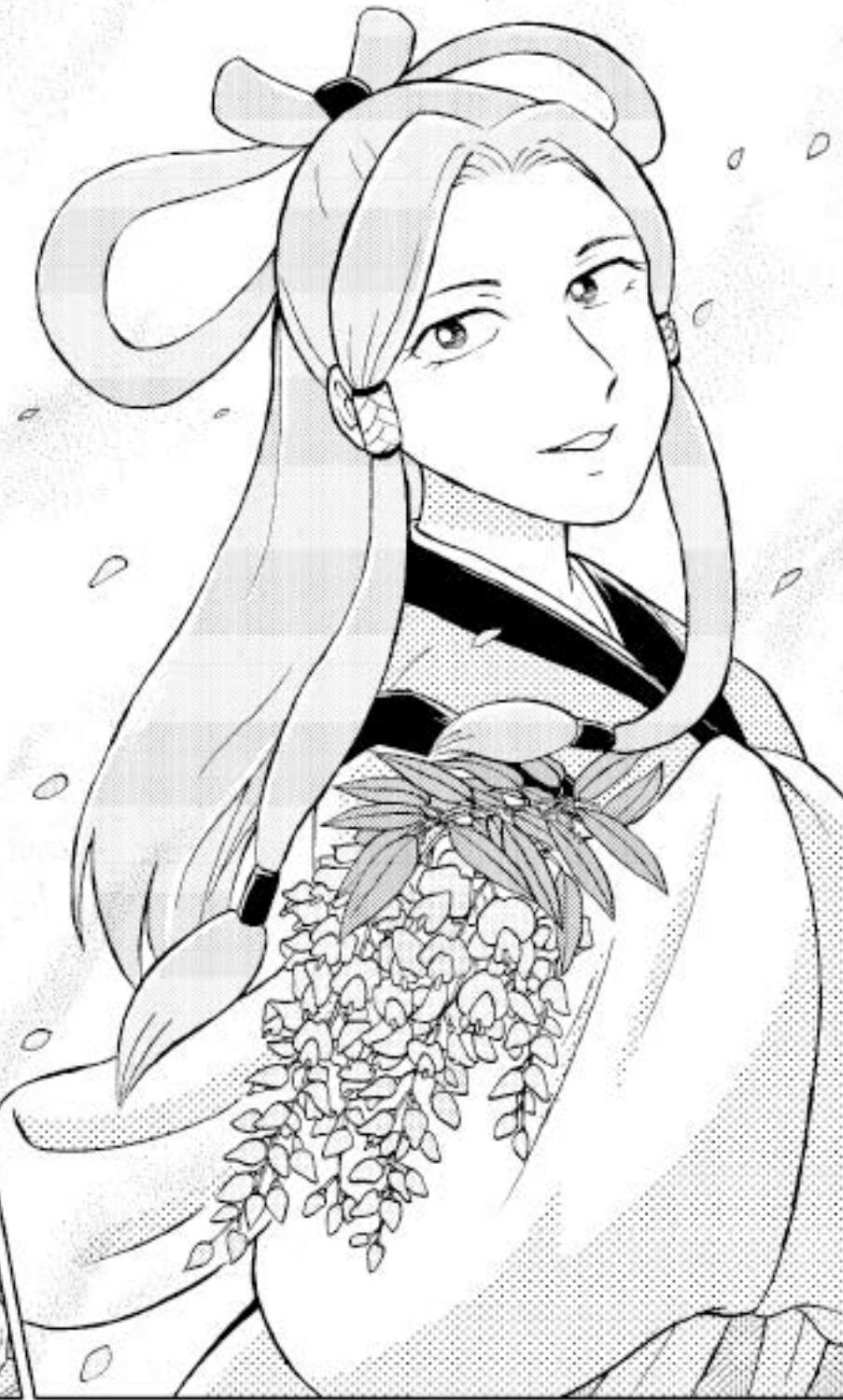


トヨは
今までの
トヨでは
ない
この時が来た
いよいよ

トヨ

3 単弥呼の後継者トヨについて
年頃（推定）
2 単弥呼が死んだのが、一二四八年頃（推定）
1 トヨは単弥呼の宗女であること
と、
魏志倭人伝には、
宗女とは「大漢和辞典」によ
ると、「同宗の女、王女」とあ
る、「宗族」を「父の一族」また
は「一族」とあることから、「宗
子」は「本家を嗣ぐ子、嫡長子、
同族の子」となる。つまり、宗女
とは、祭祀を繼承した本家筋に當
たる女性を言うのであろう。
トヨが女王になったのは、単弥呼
没後であることを考えると、二
四九年（推定）となる。

ヒバス姫と丹後王国



「日本書紀」

ヤマト政権が作った氏姓制度のひとつ。大王の元に大臣と大連があり、さらにその下に伴造(にゆうぞう)、縣主(けんしゆ)が設けられた。國造(こくぞう)、縣主(けんしゆ)が設けられた。

「古事記」には、開化天皇の後に、「丹波の大縣主由暮理の娘・竹野姫」とある。そのことから、由暮理は単なる縣主よりも大きな力を持つ豪族で、しかも天皇に力を出すほどの家柄だったことがわかる。

「古事記」には、開化天皇の時代に「丹波の大縣主」、雄略天皇

「古事記」

でも、それらの古い時代の記述には丹後のお姫様が出てくるのよね

これには古代丹波の勢力がどれほど強かつたか

そういうことが表れている

の時代に「志畿の大縣主」があ

ここは
熊野の海

海外からの
荷が着いたぞー

開化天皇の
お妃として
大縣主
由暮理の娘
竹野姫が
登場する

「縣主」というのは
たくさんあつても
「大」がつくのは
丹後ぐらいじゃ



由暮理は
鍛治王
だつたという
説もある

鐵を
制する者は
強い



古代は
母系社会で
母方が権力を
持っているため
男側が

そこに入った、
という考え方
できるがね

まあ 続きを
見てみよう

あっ

何か
珍しいものが
あるかね

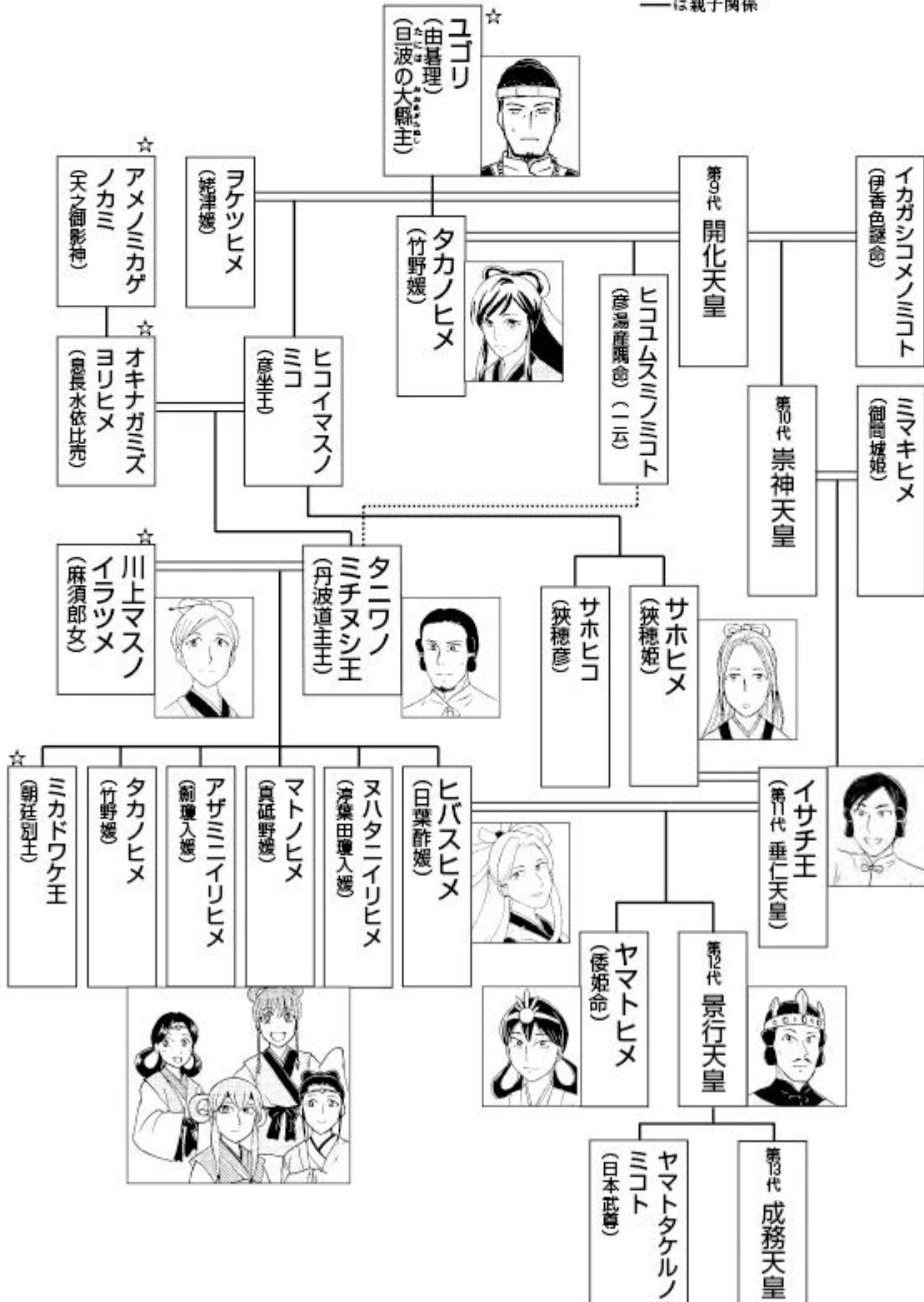
熊野の海

現在の熊野の海（久美浜湾）



2話の登場人物、関係図

『日本書紀』により作成
ただし、☆は『古事記』による
—は婚姻関係
—は親子関係



丹波道主王様！



王家屋敷

王屋敷



京丹後市久美浜町の妙泉寺の裏に、二段作りの大きな丘陵があり「王屋敷」と呼ばれている。かつて、丹波道主王が川上麻須（川上麻須郎と一説ある）の娘をめとり、丹波道主命が館を構えたといわれる。丘上は相当広く、昔はここに池もあったという。

『日本書紀』には、丹波道主王は彦坐王の子であるとされている。『日本書紀』の一云には彦湯産隅王の子と記載されている。『古事記』には、丹波比古多々須美知能宇斯王は日子坐王の子とある。川上麻須の館跡は、「須田小字シモ山」と、「小字オノ宮」の二説がある。

第3部 遺跡が語る丹後王国



ニゴレ古墳出土の鉄の中貫
(京都大学総合博物館所蔵)

日本海は荒海と言われますが、丹後の海岸沿いには、今の久美浜湾のような「瀬瀬」と呼ばれる浅い入り江がありました。そこは波がおだやかな良い港として、日本各地や大陸をつなぐ拠点となりました。

丹後の各地に残る遺跡や古墳などからは当時の暮らししづらがうかがえます。その中には水晶の工房や、わが国で最古級の製鉄遺跡などがあり、高度な技術を有していたことがわかります。

その背景には朝鮮半島や中国大陸との交流があり、鉄やガラスを入手していましたと考えられます。大和王権にとって丹後は大きな存在だったようで、その証しに「日本海三大古墳」と呼ばれる巨大古墳が丹後に築かれました。そこに眠る王とは? 大陸との関わりは? 遺跡から何が見えるのか、探してみましょう。

神明山古墳(京丹後市丹後町)ごとに日本海を望む、たんぽあたりまで墓域だった。(梅原幸一撮影)

潟湖を通じて大陸と交流

良港を活かして外交

丹後には縄文時代から人が住んでいました。平遺跡（京丹後市丹後町）、浜詰遺跡（同網野町）、西石浜遺跡（同久美浜町）などから縄文土器や当時の石器が見つかっています。浜詰遺跡からは堅穴住居が発見され、復元された古い事例として有名です。

丹後をはじめとする日本海沿岸には「潟湖」と呼ばれる浅い入り江が存在し、舟が着きやすいため、港として発達しました。浦入遺跡（舞鶴市）から約五三〇〇年前の丸木舟が、二ゴレ古墳（京丹後市赤栄町）からは舟形の埴輪が出土しています。このような舟で航海をしたのでしょう。



▲ 5300 年前の縄文時代丸木舟（浦入遺跡・舞鶴市）



▲ 舟形埴輪（二ゴレ古墳出土）（京都大学総合博物館所蔵）



青龍三年万福泉始四神鏡と
「青龍三年」部分（大田南5号鏡）

日本最古の年号が刻印された鏡

古墳時代中期前半の古墳である大田南五号墳（京丹後市峰山町・赤栄町）から「方格規矩四神鏡」という銅鏡が出土しました。中国の魏の年号である「青龍三年」という文字が記されており、青龍三年は西暦一二五年に当たります。倭国王の卑弥呼が二三九年に魏に使いを送った際に持ち帰つたものではないか

したと考えられ、大陸との交流を物語っています。ほかにも西石浜遺跡（京丹後市久美浜町）からは「貨泉」という中国の新王朝時代（八九二三年）の貨幣が見つかり、海上に面した交流の拠点として注目されます。

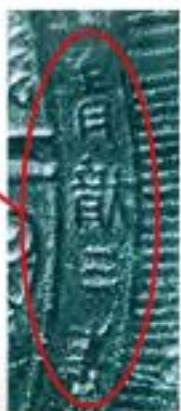
という説もあります。鏡に記された年号としては日本最古の貴重なものですね。



中国の新時代の貨幣（西石浜遺跡出土）
(京都大学総合博物館所蔵)



商鏡（土器の一類）中国で始めたもので、日本国内で100個ほどしか見つかっていないが、そのうちの10個が丹後で出土した。北九州から山陰に直在し、日本海ルートの交差点を物語る。



青龍三年万福泉始四神鏡と
「青龍三年」部分（大田南5号鏡）

最先端だった丹後のものづくり

きらめく水晶・ガラス・鉄

丹後の遺跡からは当時の日本でも珍しい鉄器やガラス、水晶が出土しています。そこから高度なものづくりが盛んだったことを示しています。

日本で最大・最古の水晶製玉作り工房

奈良岡遺跡（京丹後市弥栄町）からは、弥生時代の水晶の玉作り工房が九六基見つかりました。原料となる水晶の原石から製品になる過程を復元することができます。また、水晶を加工する針状の道具などが数千点も出土しています。この水晶製玉作り工房は日本で最も古く、しかも規模は日本最大です。

水晶はとても硬い石で、その加工には、高度な技術や道具が必要でした。弥生時代



奈良岡遺跡各工程での水晶（京都府所蔵、公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター保管、出合明撮影）

大量のガラス玉が出土

三坂神社墳墓群や左坂墳墓群（どちらも京丹後市大宮町）、大山墳墓群（京丹後市丹後町）など弥生時代の墳墓からは、大量のガラス玉が出土しました。これらは首飾りや頭飾りに使われたものもあり、多いものでは一つの棺から約六〇〇個もの青い小さなガラス玉が出土しています。

遺跡からは、カリガラスや鉛ガラスといつた当時の日本では生産できないガラス成分が見つかりました。海外から入手したガラスを丹後で加工していたこともわかります。こうしたことから、当時すでに



左坂墳墓群出土 ガラス玉

日本最古級の製鉄遺跡

赤坂遺跡（京丹後市弥栄町）では、六世紀後半の製鉄の工房が見つかり、わが国でも最古級の大規模な製鉄遺跡とされています。この遺跡には製鉄炉や鍛冶炉の跡、木炭窯の跡などがあり、古代丹後の進んだ技術を物語っています。また、製造に使う道具も出土しています。



赤坂遺跡（公益財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター提供）

豊富な鉄

丹後の弥生時代の墳墓からは多量の鉄製品が出土します。出土量は北部九州に次ぐ量です。

このように、優れた技術や豊かな資源を持ち、大陸にも近い丹後には有力な豪族がいたと考えられます。



三坂神社3号墳出土の鉄製品

高度な技術を有していたことがうかがえます。

当時の全国のガラスの出土数を見ると、長崎、佐賀、京都が一万点以上で、中でも丹後と北部九州が密度で群を抜いています。

また、赤坂今井墳墓（京丹後市峰山町）から出土したガラス管玉には、当時の中國大陸で使用された顔料（塗料）の「漢青（ハングル）」が使われています。これは国内でも数例しか発見されておらず、当時の丹後が大陸と交流があつたことがわかります。

この頃 ムラは
稻作のために
河口など水のある
低地にできました

ムラの周囲には
泥棒や外敵の侵入を防ぐために
柵や濠が作られます

次第に人が増え
土地が足りなくなると
川の中流域に
移り、高所に
ムラが造られます



こちらは
扇谷遺跡

幅6m
深さ4mの溝を
二重に掘つて
あるのよ



水稻耕作が広まる

弥生時代は、各地に大陸から伝わった
水稻耕作が広ります。日本海沿岸では、
青森県などで弥生時代前期の水稻田が見つ
かり、東海や関東に先がけて稻作が始ま
りました。

丹後では弥生時代の初頭にさかのぼる
遺跡は未発見ですが、潟湖に面した竹野
遺跡（京丹後市丹後町）や内陸部の藏ヶ
崎遺跡（与謝野町）で弥生時代前期の遺
跡が見られます。このうち藏ヶ崎遺跡で
は水路が見つかり、水稻の始まりを示す
と考えられています。

高台に住み、ムラができていきました。
扇谷遺跡（京丹後市峰山町）では周囲
を深さ四mもある深い濠がめぐらされて
います。

環濠集落の出現

ムラからクニへ　弥生時代前・中期

弥生時代前・中期

います。断面がV字になり、それが二重

に掘られた環濠集落で、外部からの敵を
防ぐためと考えられています。この濠か

らは多量の弥生土器のほかに陶壺（土笛）
や鉄製品、ガラス原料、玉作り関連の資
料などが出土しています。

王の成長

弥生時代の中期後半には埴丘（盛り土）
の周囲に石を貼りつける方形貼石墓が出
現します。

日吉ヶ丘遺跡一号墓（与謝野町）では、
三一四m × 一〇m の方形貼石墓が見
つかり、その規模は当時としては日本最
大級です。また、木棺からは六七七点以
上の管玉が出土しました。この管玉は直
径が二三mmと細く、高度なものづくり技術
があつたことがうかがえます。

墓の大きさや副葬品に格差がみられ、
王の成長を示すと考えられます。

丹後独特の台状墓

弥生時代後期には台状墓が出現します。
左坂墳墓群（京丹後市大宮町）では、丘

陵地に一六〇基もの墓穴が確認されまし
た。台状墓は丹後を中心とした独自のも
ので、中国大陸に由来する素理頭鉄刀や、
多重のガラス玉が副葬され、大陸との交
流を物語っています。

また、棺の周囲にはいくつもの割れた
器の破片などが見つかりました。これは
土器を削つて葬る「墓壙内破碎土器供
奉儀礼」といわれる丹後・但馬に特徴的
な葬送儀礼です。



扇谷遺跡の濠（京丹後市峰山町）

62





王墓の出現

弥生時代後期

他国と交易をした王の墓

弥生時代後期後半には、長大な舟形木棺を納めた台状墓が出現し、「王墓」と

大風呂南一号墓
(与謝野町) は長きは

二七m、幅一八mの台状墓です。舟形木棺の中からは青く透き通ったガラスの瓶

(脚輪)をはじめ、一二振の鉄剣、一三個の鋼の劍など他の地域には数少ない物

ガラス工芸

ラス鏡は全国でも出土例が

260

ガラス
墓で出土した

ものは断面が
五角形をして

おり 日本で

1

10

1148

七

10

10



四三五

は、一点だけの貴重な物です。また、
飼は、北部九州の遺跡から出土することが
多いものであることから、日本海を通
じて九州と交易をしていた有力者であ
ることがわかります。

大風呂南一号墓は小高い丘の上にあ
り、阿蘇海を見下ろすことができます。
ここに埋葬された王は、九州や朝鮮半島
と交易を深めた海を見ながら眠つていた
のかも知れません。

赤坂今井墳墓（京舟後市峰山町）は弥生時代後期末の墳墓です。東西三六四、南北三九四、高さ三・五四メートルの台状墓で、当時の弥生墳墓としては日本でも最大級の大きさを持つものです。



天皇御内1号高全署。向瀬源が陛下にひるがる。



被葬者の頭部付近の赤色顔料は水銀朱と判明している。頭頂部にはガラス管玉やガラス勾玉などの三連の玉飾りが、両耳の位置には細身のガラス管玉とガラス勾玉を連ねた玉飾りが発見された。



頭飾りの復元品



赤坂今井墳墓（赤丹後市峰山町）の全貌

幅一〇・五mの巨大なものです。二番目に大きな第四埋葬部には舟形木棺が納められ、中は真っ赤な水銀朱が塗られていました。副葬品として、ガラスの勾玉やガラス管玉などを三重に組み合わせた豪華な頭飾りが副葬されていました。青いガラス玉には、中国の秦の始皇帝陵の兵馬俑に使われたと同じ「漢青」（ハンブルー）という人工顔料が使用されています。また、日本各地の土器も見つかっています。広い範囲での交流と王の活躍を見ることができます。

第4部 今に息づく丹後の宝

古代から製鉄やガラス、水晶の加工など、優れた技術を持つ丹後は、モノづくり王国でした。その技術とセンスは、やがて丹後ちりめんを生み出すこととなりました。日本最大の鶴の産地として、わが国の織維産業を支えてきました。一方で、舞鶴の赤レンガ建築は、明治以降の日本の近代化に大きく貢献しています。

日本海がもたらす海の幸や素晴らしい伝統を受け継いでいます。

また、海と山という豊かな自然に囲まれた立地は、観光名所としても素晴らしいところです。

ここからは今に息づく丹後の宝を紹介します。



丹後は食の宝庫

グルメな縄文人

海に囲まれた日本列島では、縄文時代（約一万年前）から貝の採取や漁労を行い海の幸を享受しました。丹後でも、浜詰遺跡（京丹後市網野町）において、マグロ・タイ・フグ・クジラや、カキ・ハマグリなどが出土し、豊かな食生活が想像されます。



久萬浜名物のカキ



芳井町字野から蘇米五斗を
納めることを記した木牌
(奈良文化財研究所所蔵)



現在も丹後名物のコノシロ寿司



伊根湾の漁港（大正期）



間人漁港に水揚げされた間人ガニ



日本海冬の味覚の王者、間人ガニ

木間に見る海産物

奈良の都に運ばれた税金の荷札は「木簡」と呼ばれ、当時の特産物を知ることができます。丹後からは「伊和口」（イワシ）・「近代」（ヨノシロ）・「小堅魚」（カツオ）・「久己利」（カワハギ）・「鮭」（サケ）が運ばれています。

由良川は鮭が遡上する南限に当たり、奈良時代にも都に「鮮鮭」が貢納されていました。また、丹後では現在もカワハギが「コングリ」と呼ばれていますが、「久己利」の表記から、こうした名前が奈良時代に定着していたことがわかります。

クジラは食用にするだけでなく、油を採取して灯りなどに使用していました。当時としては貴重な油を、クジラから得ていたのですね。

丹後の捕鯨は、伊根湾にクジラを追い込み、湾口を網でふさいで逃げられなくして捕獲するという方法です。また、伊根湾に浮かぶ青島には鯨の墓も残されています。

伊根湾でクジラ漁

間人ガニ

伊根湾（伊根町）では、古代からクジラ漁が始まり、大正期まで続けられていました。地区的古文書「鮫永代報」によると、ザトウクジラ、ナガスクジラ、セミクジラ計三五五頭を捕獲したことが記録されています。

クジラは食用にするだけでなく、油を採取して灯りなどに使用していました。当時としては貴重な油を、クジラから得ていたのですね。

ズワイガニ（松葉ガニなど、地域により呼び名は異なる）は、日本海の冬の味覚の王様です。月後沖合にはカニの好漁場があり、間人漁港の底曳網渔船は漁場から近く、その日のうちに水揚げされるため、とても新鮮です。間人漁港で扱われる「間人ガニ」はブランドガニとして高値で取り引きされています。

日本の稻作発祥の神話

奈良の都に運ばれた丹後の米

第4部 今に息づく丹後の宝



月の輪田（茅野後市山田町）



パラ寿司は丹後の郷土食



江戸時代、有数の酒造業として栄えた旧三上家住宅（重要文化財・吉津市）。右の大釜で米を蒸した。その奥が麹室。見学ができる。

奈良時代の木簡によると、丹後から「白米」「赤脊米」「須米」「酉米」などが都に運ばれ、古代から米の産地であつたことがわかります。

特に平城京内の造酒司という役所から米の木簡が多数出土し、大嘗祭（天皇が即位する儀式）などの祭祀に用いる酒との関係が考えられます。

丹後は現在も、米どころ、酒どころとして知られ、その伝統は古代までさかのぼります。

伊勢神宮の外宮に祀られている豐受大神は、もともとは丹後（丹波）におられました。食をつかさどる神として伊勢神宮に迎えられます。民間伝承として豐受大神が丹後（丹波）にいるときに、最初に稻作を始めたのが、「月の輪田」と伝えられています。

丹後は日本海と山に囲まれた地形で、星夜の気温差があります。それによつて粘りと甘味があるおいしい米ができるのです。この豊かな自然環境で育つた丹後コシヒカリは、財團法人日本穀物検定協会が行つている食味官能試験において、「特A」（特に良好）という高い評価を得ています。

パラ寿司

丹後の郷土食に「パラ寿司」があります。これは「まつぶた」という木の器に寿司飯を敷き詰め、甘辛く煮つけたサバのおぼろや錦糸玉子、紅ショウガなどを彩よく盛り付けたもので、祭りや盆・正月などに出されるこちそうです。家庭によって味や具材が異なりますが、「こつとう」（こつとう）と呼ばれ、切り分けていただきます。

丹後コシヒカリ

丹後コシヒカリ

丹後は日本海と山に囲まれた地形で、星夜の気温差があります。それによつて粘りと甘味があるおいしい米ができるのです。この豊かな自然環境で育つた丹後コシヒカリは、財團法人日本穀物検定協会が行つている食味官能試験において、「特A」（特に良好）という高い評価を得ています。

羽衣伝承と丹後の酒づくり

米どころは酒どころと言われます。おいしい酒を造るにはいい米といい水が必要で、丹後にはその両方がそろっています。

丹後に伝わる羽衣伝承に出てくる天女は、酒づくりの名人でした。当時の酒は米を噛んで発酵させたそうです。その酒は万病に効くということで天女を育てた和奈佐夫婦は、豊かになつたと伝えられています。これが日本酒の始まりだと昔されています。

丹後コシヒカリ

酒づくりは複雑な工程に加えて厳しい温度管理や、もろみの仕込みなど高度な技術が求められます。それらを管理し、各職人に指示を出すのが、杜氏（トウジ）です。酒づくりは地域によってやり方が異なりますが、丹後には「丹後杜氏」の伝統が伝わり、丹後ならではの酒を造り出しています。



舞鶴が発祥の肉じゃが

肉じゃが誕生物語

明治三四（一九〇一）年に日本海防衛の要である舞鶴鎮守府が開庁され、初代司令長官には後にロシアのバルチック艦隊と日本海海戦を行い、大勝利を収めた東郷平八郎が赴任しました。

肉じゃが

東郷平八郎は、イギリスのボーツマスに留学していた際に食べたビーフシチューの味が忘れられず、日本へ帰国後、艦上食として作らせようとした。

しかし、料理長はビーフシチューなど見たことがなく、おまけに西洋の調味料がなかったため、東郷の話から醤油と砂糖を使い作つたのが「肉じゃが」の始まりと言わっています。

海上自衛隊第四術科学校には、旧日本海軍が調理の担当教員を育成するために編さんした教科書「海軍厨業管理教科書」が残つており、「肉じゃが」のレシピもそこに掲載されています。

心なごむ丹後の風景

今も残る丹後王国の名残り

早くから航海術を駆使し、日本海を通じて出雲や九州、朝鮮半島や中国大陸と交流を深めていった丹後。

古代遺跡からは、鐵の工販や石の堆など道具を使つた水晶製玉作り工房や遠處遺跡の製鐵工場の跡などが見つかり、丹後が高度な技術を持つものづくり王国だったことを物語っています。

その遺伝子を受け継ぐかのように、近代にも、新たな時代を代表する技術や建物が導入され、日本の近代化の一翼を担いました。

また、伊根の舟屋など、地域の暮らしと一体化した日本の原風景が今も残つております。「丹後は日本のふるさと」というフレーズを実感することができます。



伊根の舟屋群（伊根町）

伊根の舟屋

伊根湾に沿つて建ち並ぶ家々。その様子は、まるで海に家が浮かんでいるように見えます。舟屋と呼ばれるこの建物は、一階は舟を置くガレージとして、二階は居室などに利用されています。昭和三〇年以前の伝統的な建物も多く残り、起伏のある地形と、海と山、空の青の中に建ち並ぶ舟屋群の景観は、地域の特色を顧み者に示していることから国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。

南向きに開いた伊根湾は年間を通じて波が穏やかであることと干満差が五〇cm程度という条件、さらには伊根の投げ節にある「伊根はよいところは山で、前で鯛となる、鯨となる」が示すように、湾内漁業が盛んだったことから、湾を取り囲むように建ち並んでいき、現在は約二三〇軒もの舟屋が軒を連ねています。

人々の夢を乗せて走る加悦鉄道

大正一五（一九二六）年、丹後

ちりめんを京阪神に運ぶために、

また地域の交通の便を図るために、

目的もあって、加悦谷地方の八つ

の町村八二三名が出資した加悦鐵

道が営業を開始しました。当時は

蒸気機関車（二号機関車他）で、

丹後山田駅から加悦駅までの間五・

七kmを運行。昭和六〇（一九八五）

年四月まで活躍しました。この二

号機関車（英國 R. Stephenson 社

製）は日本に現存する蒸気機関車

のうち二番目に古いものです。

昭和一四（一九三九）年に大江

山でニッケル鉱山が発掘されてか

らは、越山駅からニッケル鉱土の

輸送にも使われました。

昭和二〇（一九四五）年の終戦後は、ニッケル鉱土の輸送が廃止され、また、次第に蒸気機関車からガソリン車、ディーゼル機関車に変わり、蒸気機関車は姿を消していきます。さらには、時代の変化に伴つて人の移動や輸送手段が変わつて、ついに昭和六〇



△日加悦鉄道の保有作業車
△日加悦鉄道 2号機関車（重要文化財、加悦SL広場、与謝野町）

（一九八五）年四月三〇日で加悦鉄道の六〇年の歴史は幕を閉じることになりました。

現在は、旧筑山駅跡地に「加悦SL広場」を創設。駅舎を復元し、鉄道資料の保存と活用が図られています。平成一二（二〇〇〇）年には七両が産業考古学会の推薦産業遺産に認定。平成一五（二〇〇三）年一二月には旧加悦鉄道車両群一両が町の文化財として指定されました。

かつては丹後の加悦谷の里を走行した二号機関車は「123号機関車」としては機関車台帳とともに国の重要文化財に指定されています。



△日加悦鉄道加悦駅舎

近代日本の発展を支えた赤レンガ

江戸から明治へと時代が変わると、舞鶴は日本海側の国の重要な拠点として注目されるようになります。明治三四（一九〇二）年、舞鶴鎮守府が

設立され、旧日本海軍によって数多く建設された。同時に、舞鶴港は日本海側で初めて（日本国内で四番目）の軍港として開港。舞鶴には、兵器や軍需品などを収めるための一棟の赤レンガの倉庫が残っています。これらの倉庫のうち八棟が国の重要文化財に指定されています。

そのうちのひとつ、明治三十六（一九〇三）年に建てられた旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫は、本格的な鉄骨構造のレンガ建造物としては日本に現存する最古級のものです。現在は赤れんが博物館として活用され、ほかの倉庫も市政会館や倉庫などとして利用されています。

そのほかにも、舞鶴にいたるところに赤レンガの姿が残っています。JR舞鶴線第四伊佐津川橋梁、第六伊佐津川橋梁、清道トンネルなどに赤レンガが使用されています。また市道北喫・桃山線北吸トンネルは、国の登録有形文化財に登録されています。



赤れんがパーク（舞鶴市）

伊根の舟屋、蒸気機関車、赤レンガ……。どれもどこかなつかしい日本風景が、丹後にあるのです。

資料館など一覧

	住 所	電 話	開 館	料 金	URL
京都府立 丹後郷土資料館	〒629-2234 京都府宮津市 宇国分小字天王山611-1	0772- 27-0230	開館 休館 月曜、年末年始	大人300円 小人 50円	http://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/cms/
京丹後市立 丹後古代の里 資料館	〒627-0228 京都府京丹後市 丹後町宮108	0772- 75-2431	開館 休館 火曜、年末年始	大人300円 小人150円	http://www.city.kyotango.kyoto.jp/museum/kodainosato/
豪商稲葉本家	〒629-3410 京都府京丹後市 久美浜町3102	0772- 82-2356	開館 休館 水曜	無料	http://www6.ocn.ne.jp/~inaba
与謝野町立 古墳公園 はにわ資料館	〒629-2411 京都府与謝郡 与謝野町宇明石2341	0772- 43-1992	開館 休館 月曜（12～2月は火曜）、年末年始	大人300円 小人150円	http://www.town-yosano.jp/wwwg/section/detail.jsp?common_id=403
舞鶴市立 赤れんが博物館	〒625-0036 京都府舞鶴市 宇浜2011番地	0773- 66-1095	開館 休館 年末年始	大人300円 学生150円	http://www.city.maizuru-kyoto.jp/modules/sangyoshinp/index.php?content_id=341
舞鶴引揚記念館	〒625-0133 京都府舞鶴市 宇平1584番地 引揚記念公園内	0773- 68-0836	開館 休館 第3木曜、年末年始	大人300円 学生150円	http://m-hikiage-museum.jp/
旧三上家住宅	〒626-0014 宮津市宇河原 1850	0772- 22-7529	開館 休館 年末年始	大人350円 小人250円	http://www.amanohashidate.jp/mikamike/
加悦SL広場	〒629-2422 京都府与謝郡 与謝野町宇滝941-2	0772- 42-3186	開館 10:00～17:00 年中無休	大人300円 小人100円	http://www.kyt-net.jp/kayashiroba/
旧尾藤家住宅	〒629-2403 京都府与謝郡与 謝野町宇加悦1085	0772- 43-1166	開館 9:00～17:00 休館 月曜、年末年始	大人200円 小人100円	http://www.yosano.or.jp/chirimen-kaido/?page_id=162



丹後王国 史跡マップ

- | | | |
|--------------------|----------------------|--------------------------|
| ① 湯舟坂2号墳 (68p) | ⑯ ニゴレ古墳 (68p) | ⑰ 京都府立丹後郷土資料館 |
| ② 豪商稻葉本家 | ⑰ 遺迹遺跡 (26p, 61p) | ⑱ 天橋立 (50p) |
| ③ 岩船神社 | ㉑ 大田南古墳群 (20p, 60p) | ⑲ 天橋立ビューランド (50p) |
| ④ 鹿石浜遺跡 (60p) | ㉒ 扇谷遺跡 (62p) | ⑳ 旧三上家住宅 (71p) |
| ⑤ 浜詰遺跡 (60p) | ㉓ 途中ヶ丘遺跡 (72p) | ㉑ 天風呂南墳墓群 (7p, 64p) |
| ⑥ 島見神社 (55p) | ㉔ 磨砂山 (53p) | ㉒ 戴ヶ崎遺跡 (62p) |
| ⑦ 離湖古墳 (68p) | ㉕ 大谷古墳 (女王の丘) (67p) | ㉓ 蝙子山1号墳・与謝野町立古墳公園 (66p) |
| ⑧ 網野鶴子山古墳 (66p) | ㉖ 平遺跡 (60p) | ㉔ 倭文神社 (与謝野町, 73p) |
| ⑨ 赤坂今井墳墓 (64p) | ㉗ 浦嶋神社 (54p) | ㉕ 加悦SL広場 (74p) |
| ⑩ 比沼麻奈鳩神社 (58p) | ㉘ 新井崎神社 (50p) | ㉖ 大江山連峰 (42p, 51p) |
| ⑪ 藤社神社 (58p) | ㉙ 伊根の舟屋 (74p) | ㉗ 笑原神社 (58p) |
| ⑫ 産土山古墳 (68p) | ㉚ 冠鹿 (15p) | ㉘ 倭文神社 (舞鶴市, 73p) |
| ⑬ 京丹後市立丹後古代の里資料館 | ㉛ 菊織り伝承交流館 (73p) | ㉙ 赤れんが博物館 (75p) |
| ⑭ 竹野神社 (51p) | ㉜ 成相寺 (50p) | ㉚ 浦入遺跡 (60p) |
| ⑮ 神羽山古墳 (66p) | ㉝ 龍神社 (3p, 25p, 57p) | |
| ⑯ 黒部鶴子山古墳 | ㉞ 真名井神社 (18p, 58p) | |
| ⑰ 奈良神社 (52p) | ㉟ 傘松公園 (50p) | |
| ⑱ 奈良跡遺跡 (26p, 61p) | | |

丹後建国1300年記念事業実行委員会

京都府舞鶴市

〒625-8365 京都府舞鶴市字北吸1044

電話 0773-66-1042

京都府宮津市

〒625-8301 京都府宮津市字柳縄手345-1

電話 0772-45-1601

京都府京丹後市

〒627-8367 京都府京丹後市峰山町杉谷889

電話 0772-69-0120

京都府与謝郡伊根町

〒625-0493 京都府与謝郡伊根町字日出651

電話 0772-32-0502

京都府与謝郡与謝野町

〒629-3292 京都府与謝郡与謝野町字岩流1798-1 電話 0772-46-3084

本書の編集について

- ① 第1部は、京丹後市出身の伴とし子氏個人の説に基づいて編集したもので、歴史的事実については様々な説があります。
- ② 第2～4部は、発表成果等により執筆・編集し、観光・地域づくりを考えて編集しました。

写真の提供について

とくに記載のない写真是、実行委員会5自治体からの提供写真です。

丹後建国1300年記念事業実行委員会

せせらぎ出版 出版ネット制作チーム

ディレクター	山崎亮一
執筆	金選子み子
漫画	みさき明良
デザイン・DTP	大山記系夫
装丁	上野かおる
校正	中倉香代

丹後王国物語 一丹後は日本のふるさと

平成25(2013)年11月30日 第1刷発行

編者 丹後建国1300年記念事業実行委員会

発行者 山崎亮一

発行所 せせらぎ出版

〒530-0043 大阪市北区天満2丁目1-19 高島ビル2階

TEL 06-6357-6916 FAX 06-6357-9279

印刷・製本 株式会社関西共同印刷所



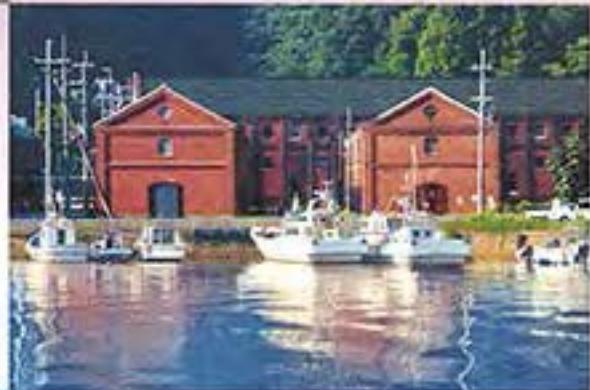
9784884162252

ISBN978-4-88416-225-2
C0021 Y952E



1920021009525

定価(本体952円+税)



もっと読む

●紙の本(税込1000円)を購入する